

登録コード	EKF45900	開講年度	2026				
授業科目	家庭科教材開発演習					担当教員	山岸 明浩 他
英文授業名	Seminar on Teaching Material Development (Home Economics)					副担当	沖嶋 直子
単位数	1	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	木曜・2時限	履修学年	1・2年生
講義室	教育W 3 2 1			授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	教育の専門職としての学識・技能					家庭科の教育内容の専門職として教材に関する学識・技能を身に着けるとともに, 学んだ知識と技能を実践できるようになる。	
(2)授業の概要	演習形式で, 家庭科教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない, 質疑応答・討議する。また, 最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら, 家庭科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。 教材・教具の役割や価値を把握して, 授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか, また, 教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを, 演習を通して検討する。そして, 教材・教具の開発・改良をおこない, これらの活用を意識した指導計画を作成し, 教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。						
(3)授業計画	第 1 回: 教科指導の問題意識に基づく教材・教具に対する課題設定 第 2 回: デジタル教材の特徴や有効な活用方法および既存教材・関連研究の分析 第 3 回: 教科指導の問題意識に基づく教材開発の方法の理論と既存教材・関連研究の分析 第 4 回: 教科指導の問題意識に基づく教材・教具の開発 第 5 回: 各自が開発した教材・教具についての検討 第 6 回: 各自が開発した教材・教具についての議論を踏まえての改良 第 7 回: 成果のまとめおよび各自が開発した教材・教具を活用した学習過程の構想(レポート提出) 各回とも教員2名によるTTで指導をする(分担, 単独等は適宜対応)。 なお, 授業の実施方法(対面・オンライン等)は, 受講生と相談しながら進める。						
(4)成績評価の方法	・各回の発表内容(40%), 質疑応答・議論の内容(20%), およびレポート(40%)によって評価する。 ・評価割合は, 若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(5)履修上の注意	履修する場合は, 必ず事前に担当教員に連絡をし, 履修についての相談を行うこと。 内容によって, 授業日程や開催場所を変更することがある。 履修に当たっては, 自らの研究課題を考慮し, 指導教員と相談の上で決定すること。						
(6)質問,相談への対応および連絡先	山岸明浩 W311 026 (238) 4187 yamaaki@shinshu-u.ac.jp 沖嶋直子 W307 026 (238) 4186 okishima_naoko@shinshu-u.ac.jp						
(7)成績評価の基準	「卓越している」: (1)研究課題, (2)理論的枠組み, (3)授業内容と専門性, (4)研究の意義, のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)～(4)のうち3つ以上について発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「かなり上である」: 上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)～(4)のうち2つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「やや上にある」: 上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)～(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「水準にある」: 上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できている。						
(8)事前事後学習の内容について	【事前学習】質疑応答・討論のための資料を準備すること。また, 研究課題に関連した文献等を, 図書館等で検索・収集し, 研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり, 吟味したりすること。 【事後学習】質疑応答・討議を通じて生まれた課題について, 事後に各自で調べて再検討すること。 この授業は, 45 時間の学修を必要とする。従って, 30 時間以上の時間外学習が必要となる。						
【教科書】	授業時に紹介する。						
【参考書】	授業時に紹介する。						